

やくも！

黒岑竜一@風来坊

## 【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

## 【あらすじ】

八雲家の緩い日常を心折れぬ程度に書いた物語。

「・・・キャラ絞って書くか」

留守番！

目次

1

留守番！

「じゃあお留守番頼んだよ、橙」

「はい！」

「私は？」

「紫様はずっと寝ていて下さい」

「酷くない!?!」

「頑張るぞー！」

「あら、張り切ってるわねえ」

「でも、このマヨヒガに侵入者なんてそうそう……」

ガララ……

「真正面から来たわ……」

「違う！ あの音は藍しやまです！」

「絶対藍しやまです！」

ドタドタドタ……

「……行っちゃったわね」

「藍しやまー！」

「ちーす、遊びに来たぜ☆」

「帰れ！」

「何この仕打ち」

「あら、魔理沙じゃない」

「おお紫、寝て無いなんて天変地異でも起きるか？」

「このガキヤ」

「ここは橙を守る！」

「藍しやまに任せられたんだもん！」

「ほー、そりや大層なこった。 よっと！」

「うにや!?! はーなーせー！」

「ほーら高い高い」

「はーなーせー！」

「よーしよーし」

「それくらいにしときなさいよ」

「そーだな」

「守れなかった！ もっと藍しやまみたく尻尾が多ければ守れたのに！」

「尻尾の数は関係ないと思うぜ」

「ところで腹減ったんだがなんか無いか？」

「饅頭ならあるわ」

「お、いただきぜ」

「コレでも食らえ！」

「投符 饅頭怖い！」

ブンッ！ ベシヤツ!!

「・・・」

「どうだ！ でていくきになったか！」

トコトコ・・・ グワシツ！

「オラアアア！」

ブンブンブンブン！

「うにやあああ！」

「辞めなさいな」

-----

「なる程な、いまあの狐は居ないのか」

「狐言うな！ 藍しやまだ！」

「まあまあ落ち着けて」

「むーっ！ これならどうだ！」

「投符 熱いお茶が怖すぎる！」

ガシツ！ ブンツ!!

「その手はもうくわんぜ！」

ビシヤツ！・・・

「あ・・・」

「にや・・・」

「・・・魔理沙」

「ん？」

「何か言うこと、あるんじゃない？」

「ああ、スマねえ☆」

「はっ倒すぞ」

「藍しやままだかなー？」

「もう少しよ」

「急ぎすぎだなあ、禿げるぜ」

「あんたはのんびりし過ぎよ、一体何時間居るわけ？」

「細けえこたあいいんだぜ」

ガラガラ・・・

「ただいまー」

「あ！ 藍しやまだ」

「藍しやまー！」

「おお橙、ちゃんと留守番できたかい？」

「はい！ 一人でちゃんと出来ました！」

「私は？」

「あら、紫様まだ起きてらしたんですか？ 珍しい」

「私を何だと思ってるのよ」

「よお藍、邪魔してるぜ」

「とんだ来客が来ていますね・・・」

「これまた大層な嫌われ様だぜ」

「夕飯は食べていきますか？」

「そうだな、たっぷりと頼むぜ！」

「帰れ！」

・・・続く！